河 拗

水俣地方に競生し 神經系疾患に關する疫學調査成績 た原因不明の中樞

熊木大学医学部公衆衛生学教室(主任 喜田村正次教授)

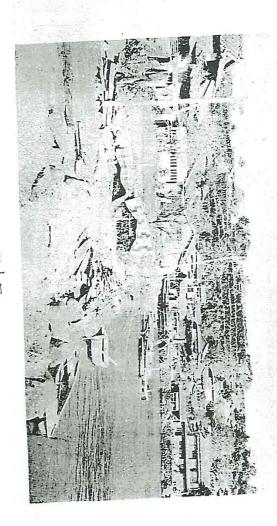
	冲	Ι	中		[1]		争		[b]-		
Yoshiyuk	口 芳	Hirosi MINAMOTO	K	Hikoji	尾	Shoki	野田田	Chuzo Miyata	田		
Noguci	芳	INAMOT		MISUMI	隅湾	DATE	Ma	VLVAIL	辛		r'alt
HI	7	0	法		!!		娏		澎	Shoji Ki	田等
	무		粗		÷				画	Shoji KITAMURA	正
Kyoji N		Susumu		Terukazı	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Nyoji	田 田 牙	MILLOIT	H TOMITA		火
ANAGAYYA	川 見	Susumu KURIMOTO		LINOJIMA	· Korra		II 为	T. Chirtie	COMITA		
	1		正	ł	主	1	l	l	河	ì	

体外路系障害を主兆候とする原因不明の中枢神経系疾患 不良である処からたちまち現地の注目を浴びた 今般水俣市周辺の漁民部落を中心として続発をみた錐 その症状が特異的でかつ激烈であり、 予後が聞めて

本疾患に対する現地の水俣奇病対策委員会よりの依拠

にもとづいて、昭和31年9月以降再三にわたり、現地に 対しての訪問面接調査をはじめとする綿密な疫学調査を **赴き,里家40戸並びに対照としてその隣接非里家68戸に** 実施した成績は以下記す通りである.

河 区 (i) 脚 些 茶



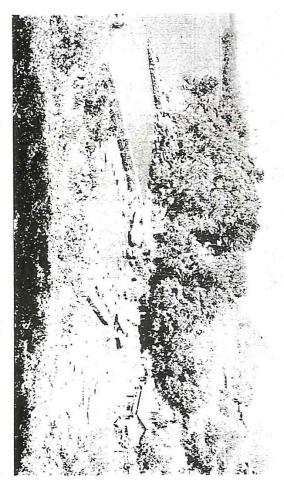
昭和32年1月 績 熊本大学 2022年6月10日 |32年1月||水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成熊本大学医学部公衆衛生学教室(主任 喜田村正次教培) キ細ト・エネデー

思者發生地域の地理的。 氣象的條件並びに現地住 民の生活狀況

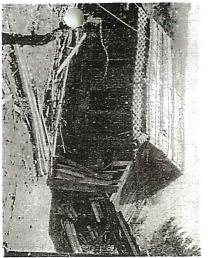
患者発生の地域は熊本県南端にある木俣市の周辺部

で、百田忠に接した風光明媚の港湾沿岸地域であり、絵に患者の多差しているのはその中、<u>明神、月の浦、甘</u>月、湯堂の4部署である。(第1~4図参照)

第2図月の浦部器



第3図 患者発生家屋の一例



同上台所



これらの部落は前岸より、比較的怠峻な傾斜をもつて背後の丘塚地帯に続く狭隘な漁村部落であり、生業は近前並びに港湾内での漁艇に従事するものが多い。生活水準は低く、住居をはじめとする生活環境は頗る不良、非衛生的であり(第3 図参照)、上水の便は悪く、食生活は主食に配給米及び一部自作の麦、甘藷をとり、副食は漁艇の魚貝頭を多食するほかは、読薬果製の摂取は乏し

当地の気象条件は、水俣市販要覧 (1956) によれば第 1妻のごとくであり、温暖多雨の地であり、主風方向北西であら以外等記すべき点は認められない。

2. 年次別,月別の患者發生狀況

現地病院、診療所よりの環境を基として、薫査した本 患者の発生数を、経時的に示せば第2妻のごとくであ ・

確実に本症であると認められた患素は、昭和28年末より発生し、表示のことく31年に到って激増をみせている。月別発生数では4月より9月までの期間に参発し、冬季は発生数が少ないという季節的消長が発明である。

3. 患者の性別年令別分布(第3表)

当地域の年令別登別の人口構成は特異な点は認められず、従つて患者は10才以下に稍々多発の傾向を示しているのみで、一般に性、年令の別なく発生している。最低年令の発病者は、発病時1年10ヶ月の女子であり、乳児においてはその診定の困難至もあろうが、症例は全く認

昭和32年1月 績 熊本大学 2022年6月10日 熊本大学医学部公衆衛生学教室 | 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 熊本医学会雑誌水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成 金田 喜田村正次教授) 赤線は山下事務所

0

鸿 _ 淵 头 EX. 라 0 14 23 (1956. 水俣市政票院による)

=	m/s			*	7.0	6.5	7.0.	5.5	4.8	7.5	6.0	_	7.0	7.0 7.5	7.5 5.	7.5
風遊	川	.		並	2.1	3.2	4.6	2.4	2.2			1.9 2.3		2.3 2.	2.3 2.7 2.8 2.	2.3 2.7 2.8
画	파	画	最同	% 医	NW	SE	NW	WW	E	S	F	E	-	Z	N NW S	N NW SE
		-	1113		0	0	0	0	0	0		0	0 2		2	2 1
日数	数	1	哥		8	7	13	4	ω	1/2		22	2		ω	(c)
天效	鬞		鼬		15	19	22	9	00	10		10	10 15		15	15 8
		_			7	ຶ່ນ	27	17	20	18	1	19	19 11	-	11	11 16
mm TH (th)	11 11	-	日最大	大	140.7	98.7	164.5	132.6	27.7	19.6	1	4.5	4.5 34.8	On	5 34.8 38.	5 34.8 38.3
	-	一部		=4/3	756.3	747.8	255. 2	327.0	61. 4	40.4	1	21.0	21.0 73.9	73	73.9 113.	73.9 113.1
慰	照	平		並	77	90	73	30	64	52	-	57	57 58	-	558	58 60
C,	_	短		南	11.0	19.9	21.7	12.0	6.8	6.5		0.6	0.6 -2.5	6 -2.	6 -2.5 -3.	6 -2.5 -3.6 2.
質量		域		叫	30.1	32.4	35.2	32.3	27.1	24. 8	-	21. 2	21.2 13.9	13.	13.9	13.9 20.0
	_	小小		並	22.6	26.6	27.3	24. 4	18.8	14.2	-	9.6	9.6 6.8	6 6.	6 6.8 7.	6 6.8 7.5
	1	22/	/ =	/	29 29 月 月	7 Д	8 Д	9 Д	10 月	ш Д		12 月		月 355	月 30 年 2	月 36 年 2 月 3

徭 2 機 年次别月别患者発生数

	30	00	13	1	<u>=</u>
li				1	12月
1	2	-	2		117月7
	-	-			10 A
	ວາ	1	_		9月
	-		4		8
	2	22			7月
	ò	_	2		6 月
	5	-	2		5月
	3	-	22		4 月
	2				3月
	_				1月—
=1	昭和31年	品和30年	昭和29年 旧	3和28年	

部3 表 患者の性別年令別分布

22.0	6 4 4	女
3 4 7 3	4 6 3	
4 29 7 82 1 48 7 82 4 8 2 4 2 4	7 4 5~ 19子	1

められて居ない

本疾患の罹病率, 致命率, 予後等

福病率は51.3 (人口1万対)となるが、丸島、 102と倍加する。(第4妻) 当該地区の総人口は10,119名で、現在までの3ヶ年の の三地区を除き漁民部落のみをとれば、 百間,参 福島率は

て高率を示し,発病より死亡に到るまでの期間は第5表 本疾患による死亡者数は17名で致命率は32.8%と極め

部 4 表 地区別世帯数、人口と患者発生数

当区	世帯数	<u>></u> п	患者数
月の浦	100	498	16
	121	649	11
	96	453	7
	104	491	ວາ
てが	70	343	3
	243	1192	ಬ
	172	978	2
丸 島	775	3839	2
*	125	586	1
	9.4	513	1
	119	577	1

S 表 Ì. 並 9 具 飨

患者の予後

52	17	23	9		
=	姓 亡	始代せぬもの	鬼疾したもの	糕	2

発症後死亡に至る期間

2	6	co	4	1	_	0	

あるがこれも若干の後遺症状を有し, 馬指
た
あ
し
た
、 の如く、最短20日最長2年3ヶ月となっている・ 生業に復しえたものは52名中僅か3名で CT D 発病後尚臥床中の 叉発病

23

ものは23名を数え、現在までの臥床期間は表示の通りで 1年以上6名。中には2年3ヶ月に及ぶものもある等。

昭和32年1月 績 熊本大学 2022年6月10日 |32年1月||水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成熊本大学医学部公衆衛生学教室(主任 喜田村正次教培) 幸紀はいてまたに

予後は風めて不良である。

5. 發生患者の地理的分布と發病順位, 並びに家族鎮積性

第4図は現地略図に、発生順位番号をつけた患者発生の部位を示したものである。(図中患者発生のみられぬ三年浦東方の沿岸地区には人家が存在しない)又第6表にも示すごとく、月の浦、湯堂地区には昭和31年の発生患者(順位番号23以下)が比較的多いが、全般的にみて患者発生の分布範囲が、潮次拡大するとか移動するような様相は窺えない、又同一世帯内での患者発病間隔も第7表のことく最短6日、最長1年5ヶ月と大幅の相異があり、

第6表 地区别年次别患者発生状况

Eq.	15.1		17.7	昭和	- 1)
	31	30	29	28	,	
11	8	1	2	0	の浦	川
_		0	0	0	п	坂
11	00		2	0	钟	验
12	S	ے,ا	2		园	E
_	,_	0	0	0	澎	뭐
5	2	-	120	0	奎	H
w	22	0	1	0	三	叫
ယ	0	0	ယ	0	くがた	444
		_				畲
22	2	0	0	0	<u> Film</u>	北
1	0	0	1	0	4良	W
52	30	8	13	,_	=40	

第7表 家族内発生間隔

月の		E		ř	まてがた	2		地 1	
通びで	EO	月浜〇惣	松〇脚	で	な 植〇樹C	(金)	当人の対	区世帯主名	
	通憩	0	O 長女 大	○長男の号 長男の号		近 長現 人 人 人	〇 長男 人 木 人	世帯主と発布	3
(5)31 (10)31 (44)31 (8)31	(7) 29 (30) 30	(19) (57) (55)	(7)30 (29)31	夏女(7)3 夏男(5)3	$\binom{4}{41} \binom{29}{29}$	$\begin{pmatrix} 2 \\ 23 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 29 \\ 23 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 29 \\ 29 \end{pmatrix}$	(36) 30 (69) 31	との関係	1 77 -
1. 4. 1. 5. 2 1. 5. 26	. 8 . 27 . 11. 15	0. 9. ~ 1. 9. 15 1. 9. 22	. 5 . 26 . 7 . 14	1. 9. 24 1. 11. 12	9. 8. 10 9. 8. 16	9. 4.25 9. 6.10	6. 20 11. 10	発病年 月 日	ribi fuil re-
約2週間 約2週間 約2週間	年2ヶ月20日	粉1年 7日	1年1ヶ月19日	2ヶ月18日	H9	1ヶ月15日	1年4ヶ月20日	発病間隔	

これらの点から見ても、本症が連鎖感染でより伝播発生したものと懸はしめる点は匿めて少ない

思者の家族集骸率(同一家族より2名以上発生した思考数の全患者数に対する割合)は21/52則も約40%であって、他の感染性中胚神経系疾患に比べ、若しい格験の高率を示している。

筒患者の大多数は当地域に定住していたものであるが、他の遠隔地域から当地域に移住後6ヶ月にして発病をみたものが2名存在する.

6. 患者發生世帯の職業分布

患者発生世帯と対照世帯の世帯主職業を比較表示したのが第8表である。当地域に漁家の多いことは当然であるが、患家群と対照群との間の漁家のしめる比率の差異は署明であり、調査において特に注目された点は、是家世帯では非漁業世帯と雖も、世帯主或いは家族の一員が何

第8表 患者発生世帯と職業

	711	胀	颠	漁	揣	源	然	4	0		=177
思家	22(559	6)	4 (10%	%)	2 () 12(30%	00%	<u> </u>	40
拉屁	10(14.7%)	7%)	3	4. 6	3(4.4%)	15(22.	%	00	8.8		68

0(29.4%) 8(70.6%)	20(: 48()	6(90%)	36(4 (漁券に関係ある世帯
涸	於	洲	ġ m	

らかの形で漁艇に従事しているものが、14世帯中10世帯 に認められ、又全然漁艇に従事セぬ4世帯も、漁家に隣接 して容易に現地採取の魚貝を入手しうる点であり、対照 の非患家においてはこのような事実は認めえなかつた。 第4図中の流量より消傷の地点に単独業生している多

第4図中の海岸より遺隔の地点に単独発生している多々良地区の患者(図中の⑥)は会社員であるが、漁艇に緩めて熱心に従事し、百間の患者(図中の⑩)も理髪業ではあるが1ヶ月の中1/3は漁艇を行つていたなどの例は、この間の事情をよく物語つているものである。

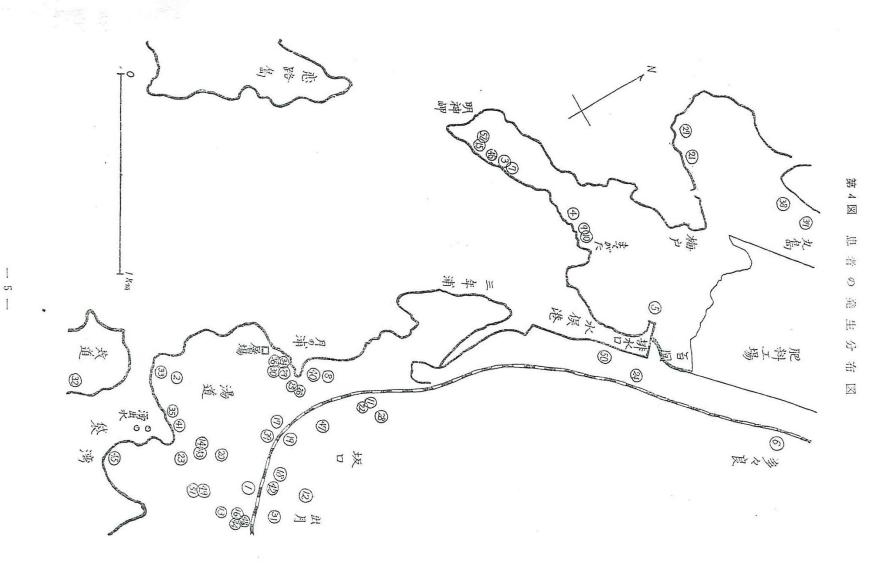
7. 現地飼育の家畜の死亡狀況

本疾患の発生に関連して、 又極めて特異的であること

第9表 猫 の 斃 死 数

	(1-(80			3	44		40)=)	3	署	迅	Ī	
314:	304	294	-4-07 HVEH	北上级	短うた数	314	30年	29年	昭和 28年	死亡数	飼った数	
			1						雅	15	×	月
-	2			c	12	6	4	w		13	14	日賦の
	2	-	-	5	23	5	ວາ	171		10	15	
_				-				<u> </u>	<u> </u>			月湯
6	4			10	133	6	ယ	6		15	18	堂明
_		_		2	2	-	2	_		4	4	
		1		-	1		1	ယ		4	4	神 まてがた 百
	1			1	2	1				-	2	
	_			2	ω	1		1		2	<u>-</u> د	二二海
												戸丸
					22						_	画物
					2			-		-	_	な。良
10	10	ری		24	60	20	15	15	0	50	61	74

昭和32年1月 績 熊本大学 2022年6月10日 |32年1月||水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成熊本大学医学部公衆衛生学教室(主任 喜田村正次教培) 幸紀はいてまたに



2022年6月10日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 熊本医学会雑誌昭和32年1月 水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成績 熊本大学医学部公衆衛生学教室(主任 喜田村正次教授)赤線は山下事務所

は、猫を主とする現地飼育の家畜に、患者類似の症状を おこして斃死するものが多い事実である。

時期と比較して概ね1~2ヶ月先行すると言はれ、年次 別の態死数をみても昭和28年以降 1, 18, 25, 30と增加 みて第9表に示すとおりであり、患寒では飼育の別はh たと死亡している。その死亡時期は飼育世帯の患者発生 しており、患者の年次別発生状況とその軌をほど同じく 聴取により確認した猫の態死状態は地区別、年次別に

状を呈して死亡したものと認められるのである。 頭と犬1頭は、いづれも魚具を摂食して猫と略々似た症 死亡状況は判然としないが、聴取によればこの中で豚5 その他の家治の死亡数は第10表のごとくであり、 200

第10表 寒 联 笸 訓 状 語

三	E T		馬中一	
5 5	. ω σ		ω - ω σ	55 22 12 23 6
		0 - 1	0011	30011

地理的分布の拡大乃至移動をみない点。同一世帯内発生 いは索系遺伝性の中枢神経系疾患とは若干様相を異にし は性別年令別に拘らぬなどの結点よりもみて、 集韻率の愿めて高い点。 金治率が 0 に等しく、 絡過は関 から人への運運感染を疑ばしめるものは少なく、又家族 患者の発病間隔期間の差異基しき点などよりみて、人 ている。上述の調査成績よりみても,<u>患者発生の経時的</u> る長期間に亘り予後が署しく不良である点。患者の発生 枢神経系疾患は否定されるのである· 本疾患は別途施行された,細菌並びKCビールス学的検 臨床並びに病理学的所見よりみて,既知の感染性或 浙行性到膜炎、急性灰白龍炎などの従来の感染性中

病理並びに臨床所見よりみて,本疾患は感染症よりむ

時点を見出しえない処から、本症が中毒症とすれば、 れら地域に特殊の共通原因による長期連続跟踪をうけて 発症するものと認められる。 であり、又個々の患者について発生機伝となるような起 で、患者の発生は地域的、経時的には散発的かつ継続的 しろ中毒産であるとの疑いがあるが、疫学的調査成績

共に中毒症を発症したものとも考えられる・ も見做せるが、 飼育せる猫の斃死状況は、猫を人体への感染源動物と これも共通原因に曝露されることにより

以下との共通原因に対する検索政績を記載する

8 飲料水並びに農作物の矯取狀況

原因の如何を間はず、飲料水の汚染によるものではない おいても 4名の患者発生をみていることは、本症がその 叉第11表にあるごとく,水俣市上水道水を使用の世帯に **患家が混在している事実は第12表の示すところであり,** 同一の共同井戸を使用する多数世帯であつても,態家,非 その使用状況は第11表に示すごとくである・然しながら く、多数世帯にて共用井戸を使用するものも少くない。 ことを明示するものである。 当該地域の上水は概ね井水を使用し、水利の便は悪

第11表 剣 並 兴

超大學	(III)	思家(40) 対照(68)	水源の
(40) (68)	水量(1月1. (含り)	28	其 用
19 16	小0~0.91~	10	井
29 13	~1.92~2.93~ *+ *+	36	開放
5 2		6	月蝦蝦
2	-3.94 斗以 半上	. 7	水道

第12表 共同井戸使用の思家と非思家

罪		窜	井
县宏戸数	家戸数 思者数)	用戸数	#
9	<u> </u>	12	Α
2	(4)	4	В
4	(2)	6	C
5	Ξ-	6	D
5	Ξ-	9	(F)
co	Ξ-	9	দ্য

	表
	₩,
н .	户
COMPANY OF STREET, STR	9
THE PERSON NAMED IN	II
The latest with the latest winds	部
S. Principles Later	艾
on and the same	70

		1	
1	13 12 6 8 1	- 黒家(40)	D
-	65 0 1 2 0 樹と	対照(68)	Ε
- 1	38 0 1 1 0	惠家(40)	E
	い 内 内 内 上 した		机地
	金然於1反以2反以5反以5反以		ddi. Lat.
	照 (68) 22(32:3%)	出	
	(60)	T	
	M	恭	
	数 題 (68) 3(4.4%) 0(0%)	}	
1 1	家 (40) 1(2.5%)	Alt.	
TIV.	自給一部自給		

配給米を購入するものが多 王虹八州と ず、米食には 作物は農業世 しての表、甘 り、海岸に接

G

昭和32年1月 績 熊本大学 2022年6月10日 熊本大学医学部公衆衛生学教室 | 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 熊本医学会雑誌 水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成 (土住 喜田村正次教授) 赤線は山下事務所

据の自給が進も思察、非思家の差は認められない。(第13 表)多々及及び百間に発生の患者使得では未保市場よりの農作物を購入している。これらの点よりみで農作物よりの信内汚裂は考証の要はなく、むしろその1人当りの自気形は考証の要はなく、むしろその1人当りの負数よりみても推奨できる思家群のより負因な状態(第14表)は、昌作面積の皆無或いはより僅少なる点も併せ

第14表 一人当りの畳数(単位的)

1	-0		ع ا	5 4	20 1	12	~ ~	形%	對資理
	€.0	.0~6 5.9	4.9	3.9 ₋₄	2.9	.0~2 1.9	$0 \sim 1$ 0.9		

9. 海産物攝取の狀況並びに漁獲方法

現地住民には漁家が多く、これらは当然多量の魚貝を 摂取しているが、他地域に比べ時異な点は港湾内で漁艇 の海産物を主として抵食することである。即ち患者発生 の当該地域に隣接した、東北、南西の両方向海岸沿いに は、現地同様の漁村部落が散在しているが、それらの部落の 落には患者の発生は全然認められず、又それらの部落の

漁民は漁区の関係上、水炭階割内における漁艇は全然行っていない。 これに反して九島より茂道に到る当該地域の漁家は主としてこの港割内の漁艇を行っているのである。

規助漁民の主な漁艇方法は、一般に小規模で緊細なものが多く、大別してかしあみ(概さしあみ)、地引あみ、一本約、たこ約、夜ぶり、貝拾いに分けられる。かしあみはビュールの割を使用し、昭和27年より始められた。その方法は、陸上でのかすみあみに似ており、前日海中に割をはつて翌 切これを引きあげるのが 普 通 である。漁場は湾内であり、特に明神、月の浦の沿岸はよくとれる。かしあみでとれる無額は、このしろ、ぎす、しいのふた、かれい、ぐち、こち、えびた、くろうお、めば

第15表 漁 進 の 方 法

1			思%(4)	0世帯)	一	世世
(3)	聚方法		的進世出数	000	生生	%
155	7	9.	15	37.5	6	8.8
善	तम तम	かりょ	2	5.0	12	2.9
- 1	Ħ		20	50.0	19	28. C
	۲Y		8	20.0	2	2.9
按	ē,		8	20.0	2	2.9
-	から	かき拾い	16	40.0	6	8.8

3	to		n.	100	1	3+	St	St	č	か											4	か	ક્ષ	^	*	۲ì	^;	か	しつ	04+	[1	*	u,	/
7	1 8		2~					Uŧ									D 3					n):	ît.	5	S.		,	1.	è		7 6		W HOMEN	
8	۲,	ſχ	SH+	ر ر	(X.	J;	ć,	5	な	叫	か	ſΥ	ſΥ	۲۲	ñ	Ċ,	^;	۴	S)	24.	2.	ſţ	94	₩:	15	24	24-	۲,	いた	4	34	ボー	3/	
"	*	"	"	*	"	湾外	"	"	1	透内		"	"	"	"	"	"	"	"	*	"	"	"	"	"	"	"	"	"	*	"	河内		漁
The same of the sa							ا برند ا (المراجع الم	見拾い	見拾い	見拾い		よぶり、たこつり	よぶり	よぶり	かしあみ	かしあみ	P)	地引あみ	湾	哟	约	(ا دی ک	かしあみ	かしあみ		かしあみ	かしあみ	かしあみ	かしあみ	绝		かしあみ、例		御の
	0	_	0	17	15	16:	2	57	- 53	17	ಒ	9	သ	7	16	10	0	12	2	4	œ	3	2	6	=	10	9	9	10	10		ω		Ī
	2	0	c	7	6	Ξ	0	2	10	3	<u>.</u> .	13	0	0	=	_	0	ယ	_	14	24	_	0	0	သ	-	2	ω	ယ	7	10	4	国	照
		_	-	14	12	18	0	co	ຫ	_	,	ıc	0	œ	12	S	0	co	2	16	21	0	0	6	8	9	9	6	6			10		113
-	0	_	0	14	Ξ	12	4	2	13	26	₁₀	4	8	6.	9	7	_	13	_	υı	13	_		9	9	6	6	7	6	00	12	0	·冷	(,
-	ယ	ω	_	52	44	57	6	12	41	47	10	28	Ξ	21	48	26	_	10	9	39	55	ວາ	ယ	21	31	29	26	25	25	35	58	9	=#	(40)
0	1	2	0	46	29	33		6	=	00	Co	6.	_	_	4	4	0	,:_	2	6	51	0	0	1 4	_	_	12	2	-	4	9	2	操	
1	-	- 1	0	- 1		28	0	2	<u>.</u>		0	S	0	0	-2-	4	0	دن	_	13	23	_	0	cu	0	0	_	ω	ယ	ယ	6	0	画	举
	2	2	2	36	37	39	_	2	2	22	_	6	0		co	co	0	_	0	18	22	0	0	4	_		2			4		-	奕	温
	0	2	0	39	35	45	_	4	9	23	ယ	13	_			-		-		-		0	0	ယ	_	_	_	_	_		4	_	※	(68
1			2	15	120	147		1	26	ço		2			1	=		=		4:	01		0	-		2.0		_	.5	12	22	4	===	(8)

昭和32年1月 績 熊本大学 2022年6月10日 参議院環境委員会 熊本大学医学部公衆衛生学教室 | 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 熊本医学会雑誌 | 水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成 (主任 喜田村正次教授) 赤線は山下事務所

7

る、かさご、くるまえび、かに、しゃこ等である。漁却は年間冷んど行う漁家もあるが、夏男は、ぼらの一本釣りに転げるものが多く、又冬規は滑々漁艇回販はびに漁艇高が減少する。昭和31年度に患者発生の増加した湯堂地区ではかしあみを行う7世帯の中5世帯までが同年度に患者を出しておるが、30年末よりかしあみの漁艇場所を誇りの商よりの個所袋湾近辺から明神、月の浦方向と北方に移動している。

地引あみの漁場は袋湾、月の浦の海岸附近である・漁 期は年間を通じて行われるが施行回数は少く、漁送は「 たれそ」(いりこいわし)が主であり、「このしろ」その他 の小魚が混じていることもある・

一本づり、たこづりは何れも誇内を漁場とし、一本づりは主に「ぼら」が多く、この外「えそ」「たちうお」がとれる、夏期漁販売の多いのは主にこの「ぼら」の漁艇によるものである。

夜ぶりは錚つきとも言われており、夜間カーバイト灯火の下に沿岸で、なまこ、あわび、たこ、かさご等の漁យを主に行う、湾内一帯の沿岸が漁場であり、漁場は年間を通じて行われる。

貝類はかき、巻貝(びな),あさりであり、主に11月より3月に採取するが、湖の関係で月に一週間位である。 又近年施票は殆んど湾内ではとれていない。

これらの漁獲方法について農家と対照と比較すれば第15表に示す通りであり、漁家世帯数の相異を考証しても 島家側には対照に比べてかしあみ、たこつり、夜ぶり、 貝拾ひが多く行われている・

接取する無貝の種類を四季別に分けて修取した所によると、恵家と対照では署別な意をみとめる(第16表)即も前述の方法でとれる湾内の無を接取しているのは患者に圧倒約に多く、対照の家では湾外でとれる無即もあだ。さば、いわし、たい等水俣の市場或いは鹿児島県米之津方面よりの行前によるものを購入抵食しているものが多い、それらの種別と長坂量を月間の長食回数により 患症した成績は第17表のごとくであつて、患家では湾内 生長の魚貝をたべる量も甚だ多いことがみられる・

第17表 魚貝の摂取状況

H O OFFICE OF	通 2~3回点べる	対 胎毎日食べる 4	月 2~3回食べる	逝 2~3回食べる	治毎日食べる	湾内の魚	
12	12	51	6	11	51	一かき貝類	The same of the sa
24	25	12	6.	2	2	湾外の魚	

湾内生育の魚貝で特に多量に供用される簡潔は、このしち、ぼら、かに、かぎ、びな等であるが、患者に共通して多食されたという特定の魚貝はなく、摂食魚貝の簡類と発病との関連は湿められない、又その調理方法も、

生食、加熱食のいづれに偏したことも認められず、患者の中には、絶対に魚貝の生食を行はなかつた者もあるこれらの点は、普通生食を行わぬ豚が斃死している事実とも併せ考えると、発病と関連のみられるのは特定の魚貝でもなく、叉生食との関連もない点からみて、仮に湾内生棲魚貝の販販が本疾患の発病の原因であつたとしても、特定の魚貝中に存する特殊生体毒によるとか或いは魚貝を介する特殊の寄生虫性疾患であることを否定しうるものであらう。

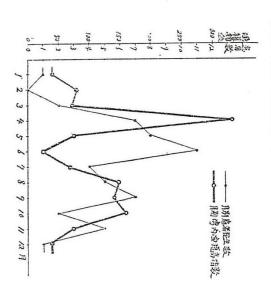
た x 湾内 生 棲魚 貝の種類に関して注目すべきことは Aneurinase を含有するものが若干認められ,これらが比較的多食される点である。

九島の漁業組合事務所で調査した患者発生漁家の年間月別湾内漁販高の消長は第18表のことく、雨季並びに冬年に減少をみせている。この消長を月別患者発生数の消長と比較図示すれば(第5図)両者の関係は若干のずれをおいてかなり一致した動きを示していることが認められる。

第18表 月別湾内漁獲状況 (漁業組合水場量の四戸合計) 年間水場量1.372費 月平均114貫

	1 H 48 2 H 91 3 H 376 5 H 86	昭和30年度 //// /// // (貴) に
75. 5	42. 1 79. 7 70. 2 330. 0	月平均漁獲高(10 に対する指数
2.2	5. 8 27. 4	00)年間漁艇高に対する(%)

第5図 月別の湾内漁獲高指数と患者発生数との関係



| | %

昭和32年1月 2022年6月10日 熊本大学医学部公衆衛生学教室 | 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 熊本医学会雑誌 水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成 (主任 喜田村正次教授) 赤線は山下事務所

以上の諧成績の示す処は、本疾患を中毒症と反定した 場合、何らかの原因で港湾内魚具屋が汚染されており、 これを現地住民或いは家治が比較的長期間良販すること によって本疾患を発症せしめたもの、即も人体侵襲の共 道原因は港湾内生長の魚貝類であると思はしめるものが ある。本疾患発生の季節別変動、早児においては患者発 生のみられぬこと、家治の中で猫の斃死の格段に多いこ となどはこれによれば一定の解釈はつくのである。

然しながら尚この場合、詳細な個人別にみた魚貝摂食 状況よりして本疾患の発症にはかなりの素因的なものが 作用するごとく思はれる。

又この港湾内魚貝が汚染されたものとしても、その汚鉄が昭和28年末近くより給まつたことの解明は無論不明であるが、最後に汚染原因ともなる可能性ありと考へられる特殊環境についての調査或績をあげる。

10. 患者競生地域の特殊環境

患者発生地域近傍の特殊環境として存在し、港湾汚染を招来する可能性ありと考えられるものとして、第4図中に示した某肥料株式会社の水俣工場、月の浦地区の水 長市営居穀場、陽堂地区の毎中に預水個所のあること並びに茂道地区に旧海軍の弾薬貯蔵庫、高角砲庫地が存在した事実があげられる。

工場よりの廃水は百川港ロへ排出されており、廃水中に含有される無機塩賦の分析値(工場技術部の測定)は第19表のごとくである。又同工場よりの排気には有毒ガスとしては通常の硫酸工場に発生する亜硫酸ガス並びに

第19 表 肥料工場廃水の分析値 (工場技術部の測定)昭和31年10月

SO ₃	P205	01	Mn	As	Pb	Cu	NH ₃	Na ₂ 0	K ₂ 0	Mg0	Ca0	$A1_{2}0_{3}$	FeCl ₃	SiO ₂	KMn04消費量	蒸発残渣総量	PH
676	9	3950	0.1	0.0	0.1:	ບາ	2/1	2700	114	436	163	19	12	23	155	9900	3.5
			7	10	Co											mg/l	

酸化窒素が含有されるのみである.

屠場は月の浦海岸に而した小丘の頂に存し、廃水は直下の海中へ放出される。最近の屠殺家治数は第20表のご

第20表 水俣市に於ける最近の居役家帝数 (単位頭)

所用 年度 21 22	告 211 207	原 62 26	12 含 31	00#	商 合計 313 247	備 考
22	207	26	14	0	247	
23	294	41	14	0	349	
24	178	166	00	0	352	
25	364	167	18	0	549	"
26	268	266	9	10	553	"
27	323	975	6	0	1,304	"
28	362	758	129	0	1,249	"
29	608	562	101	0	1,271	
30	1,554	643	30	0	2,227	"
31	984	555	31	0	1,570	31. 4.
=47	5, 353 4, 221	4, 221	400	10	9,984	

とくかある・

湯堂地区の海中萬水は、近年萬水状態に変化を認めた 事実なく、同海中で以前より行つている稚館の遊館には 変化がない。

茂道地区にあつた弾薬は、終戦後駐留軍により連猟撤去され、残存部品は某会社により買取られて海路運搬されており、これらを海中へ投棄した事実は認められない。

ざ

水段地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関し へ行った疫学的調査成績は、要約すれば次の如くである.

- 1. 患者は昭和28年末より発生し、昭和29,30年には 夫々13名と8名。昭和31年には激増し11月末までに31 名。即ち3ヶ年に合計52名発生している・
- 2. 月別患者発生は 4~9月に比較的多発し、冬季は その発生数が少く、季節的変動が署明である・
- 3. 患者は年令別、性別の差なく殆一様に発生しているが、乳児には発生例がみられない。
- 4. 本疾患の致命率は33%,症状の経過では長期間不変のものが多く、金治した例は認められない、本疾患の子後は極めて不良である。
- 5・発生地域は水俣市百川港湾沿岸の農漁村部落に限られ、その発生範囲の拡大は認められない。とくに漁家に患者発生は多く、家族集倒率は40%と極めて高率である。又同地域飼育の御は同様の症状で多数斃死してい
- 6. 本疾患は共通原因による長期直続曝露を受け発症 するものと認められ、その共通原因としては汚染された 逃涛生態の魚見類が考えられる。

本調査に当つて水俣市寄病対策 委員会の黙心な御援助,御協力を受けた。こゝに記して感謝を表する次第でもよ

94 94

昭和32年1月 績 熊本大学 2022年6月10日 熊本大学医学部公衆衛生学教室 | 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生 出典 熊本医学会雑誌水俣地方に発生した原因不明の中枢神経系疾患に関する疫学調査成 (主任 喜田村正次教授) 赤線は山下事務所

9